

親子の絆は対話から

子育てフォーラム 平野順子さん(岩手(医大))が講演

2014年度子育てフォーラムが4日、盛岡市盛岡駅西通のマリオスで開催された。盛岡市母親クラブ連絡協議会(鎌田正子会長)の主催。パーソナルコーチで岩手医科大学非常勤講師の平野順子さんが講演した。子どもを持つ親や大学生ら約60人が参加した。

核家族や共働きの家庭が増えている現在、親子の会話が少ない傾向にあるようだ。親子の会話が減ることによって、子どもの心が不安定になり、引きこもりや引きこもりなどの行動に至るケースもあるという。フォーラムでは、子どもの話を聞く「傾聴」や、子どもを認め、子どもの中から答えを引き出す質問などで、子どもの自己実現や目標達成を図るコーチング手法を、グループワークも交え学んだ。

平野さんは「親は子どもへの愛情があるがゆえに、会話の中でも

子どもへ価値観を押し付けてしまいがちになる。その結果、子どもは自分で考えることをしなくなり、将来、自分の判断に自信を持ってなくなってしまう」と、指示や助言によって相手に答えを与える「コーチング」だけの教育がもたらす弊害を話した。

「人間は、過去の経験や既成概念にとらわれて生きている。これを感じ、それが、子どもを自覚し、子どもの可能性を信じて、子ども自身で答えを導きだせるよう会話をする。子どもは、親の表情やしぐさなどから、他者とのコミュニケーションを学ぶので、子どもの顔を見ながら、話を遮らず、興味を持って最後まで子どもの話を聞くことが大切。自分の考えや行動を認められると、子どもは心強さを感じる。それが、子ども



子育てフォーラムで講演した平野さん

子どもの自己に対する信
 頼感を育て、行動が変
 化する」と、傾聴の姿勢と
 効果を話した。

盛岡タイムズ

2014年12月7日